

日刊ゲンダイDIGITAL > BOOKS > BOOKSニュース > 記事

本の森

「誰がために医師はいる」松本俊彦著

公開日：2021/07/03 06:00 更新日：2021/07/03 06:00

[>> バックナンバー](#)



[Q 拡大する](#)

30年以上前「覚せい剤やめますか、それとも人間やめますか」というCMがTVで流れ、「薬物依存者＝人間をやめた人たち」という刷り込みがなされた。1990年代末ごろからは、全国の中学・高校で「ダメ。ゼッタイ。」と唱える薬物乱用防止教室が開催されるようになった。薬物依存などのアディクション（嗜癖障害）臨床の最前線に身を置く精神科医である著者も、その教室に講師として何度か参加したが、そのたびに暗い気持ちになったという。

たとえば薬物乱用防止ポスターに描かれているのは「目が落ちくぼみ、頬がこけた、ゾンビのような」薬物乱用者で、無意識に嫌悪感を刷り込んでいる。しかし現実にはゾンビのような薬物乱用者はいない。むしろ、かっこよく、健康的に見える人の方が多い。にもかかわらず、現実からかけ離れた悪のイメージによって偏見や差別意識を助長する。それは結果として薬物依存者を孤立させ、彼らを回復から遠ざけることになるのではないかと。そうならば、こう主張しなければならない。「ダメ。ゼッタイ。」の呪文では、絶対ダメだ、と。

本書の冒頭には、著者の中学時代の思い出がつつられている。仲の良かった友人が不良グループに入りシンナーに手を出して少年院に送られた。中学を卒業してから5年後、その友人は自動車事故で亡くなり、助手席には覚せい剤と思われる薬物の袋があった。そして自分が精神科医になって気づく。友人は中学時代にすでにシンナー依存症という病気にかかっている、本来なら専門的治療を受けるべきであったのだ、と。つまり、「困った人」は「困っている人」であり、そこで必要なのは、キャンペーンやワイドショーで薬物依存者を悪者に仕立てたり法規制を増やして無用に犯罪者をつくり出すことではない。薬物に耽溺（たんでき）せざるを得ない人への支援である。

精神科医の闘い方は、外科医のように瞬殺KOを目指すのではなく、相手に打たせて疲弊を誘いながら最終的に判定で勝つことだという著者。本書はその闘いの記

ENHANCED BY Google [Q 検索](#)

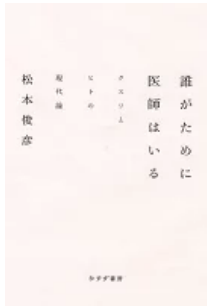
アクセスランキング	週間
1	小室圭さんバッシングがはらむ大問題 国民に溶け込んだ皇室の“危うさ”を突いている
2	小室圭さんは一度は「婚約辞退」を考えた 内定会見後のお食事会から“異変”が…
3	テレ朝「報ステ」大越健介氏キャスター抜擢で囁かれる“相手”女性キャスターの名前
4	宮城と静岡「有観客」でも人流11.4万人増！東京五輪は一大感染イベントへまっしぐら
5	小室圭さん不信を生んだ「婚約内定」発覚翌日の不可解行動

[もっと見る](#)



録だ。 <狸>

(みすず書房 2860円)



誰がために医師はいる

posted with ヨメレバ

松本俊彦 みすず書房 2021年04月05日頃

楽天ブックス 楽天kobo Amazon Kindle 7net honto 紀伊國屋書店 ebookjapan

B! ツイート

印刷

■ 関連記事

- 「計算する生命」 森田真生著
「絶対に面白い化学入門 世界史は化学でできている」 左巻健男著
「ガリヴァー旅行記」 ジョナサン・スウィフト著 高山宏訳
「『自分らしさ』と日本語」 中村桃子著
「虫たちの日本中世史」 植木朝子著

日刊ゲンダイDIGITALを読もう! 5.1万 11.7万

政治・社会 芸能 スポーツ ライフ マネー 健康

政治的完全敗北 もう誰も首相の言うことなんか聞 人命より国家優先 安倍前首相「反日的な人が五輪
きやしない! 開催に強く反対」
66歳児「安倍晋三」こそが反日 わが国の“内なる 自民党ベテラン議員続々引退も…後継は世襲だら
敵”なのだ けの“出来レース”でウンザリ

編集部オススメ
1 パソナ1000%の衝撃! コロナと五輪でボロ儲けのカラクリ
2 眞子さまは小室家に嫁いで大丈夫? 「育ち」を見極める言動
3 “泥舟”五輪強行で責任の「なすり合い」がついに始まった
4 鷲見玲奈“ポストみな実”から脱落 「バンキシャ」MC消えた
5 加藤綾子の電撃婚は予兆が…批判覚悟の強い意志があった?

特集 コロナショック

日刊ゲンダイ ヘルスケア 健康・医療の専門サイト

あなただけのヒストリー オリジナル家系図 日刊ゲンダイ

社員インタビュー

日刊ゲンダイ 電子版 ゲンダイオンライン

人気キーワード 日本学術会議 瀬戸大也

BOOKSのアクセスランキング
1 日本の国鳥に「キジ」が選ばれた理由
2 「認知症の薬を」 認知症がよくなる人がいるって本当ですか? 長尾和宏氏
3 「気がつけば警備員になっていた。」 堀田孝之著/笠倉出版社